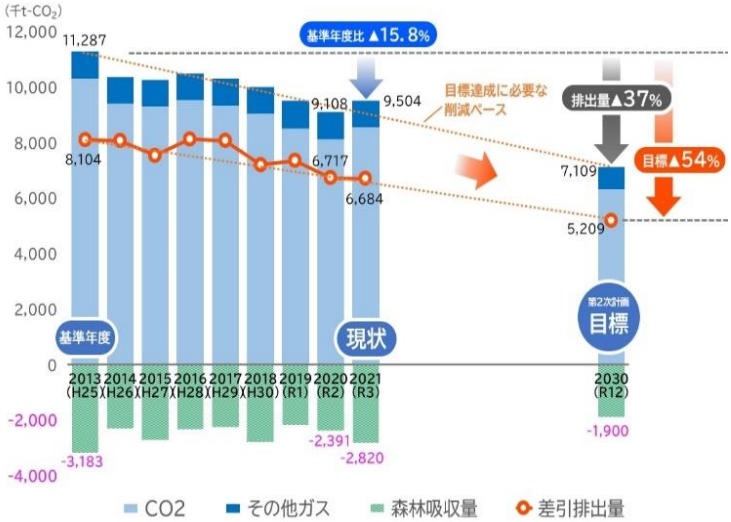


施策1 カーボンニュートラルの実現を目指す地域社会の形成
県民の行動変容や事業者の取組による地域脱炭素化の推進

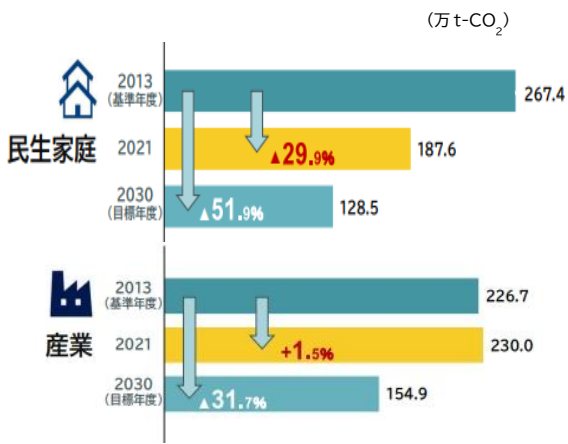
現状

○ 県では 2050 年までに温室効果ガス排出量を実施ゼロにするカーボンニュートラルの実現を目指し、第2次秋田県地球温暖化対策推進計画に基づき温室効果ガスの削減対策等を推進

【秋田県の温室効果ガス排出量の推移】



【産業、家庭部門における温室効果ガス排出量の推移】



家庭部門では脱炭素型ライフスタイルへの転換が必要

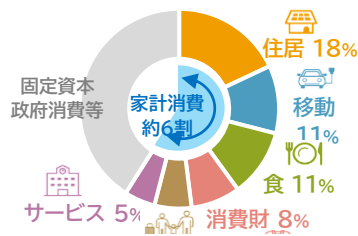
温室効果ガス(消費ベース)の約6割は家計消費に起因

脱炭素型ライフスタイル

日常生活において地球温暖化の原因となる二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を削減することを目指す生活様式

(例)

食品ロスの削減、こまめな消灯、エアコンの適切な温度設定、窓など住宅の断熱、近距離は徒歩で移動、マイボトルの持参 等



出典：R 5 環境白書

産業部門の温室効果ガス排出量の削減が必要

GX政策や世界の動向を踏まえた脱炭素経営へのシフトが必要

G X (Green Transformation (グリーントランスフォーメーション))

化石燃料からクリーンエネルギー中心の社会構造へ転換し、経済社会システム全体を変革する取組で、脱炭素と経済成長の同時実現を目指す方策

脱炭素経営

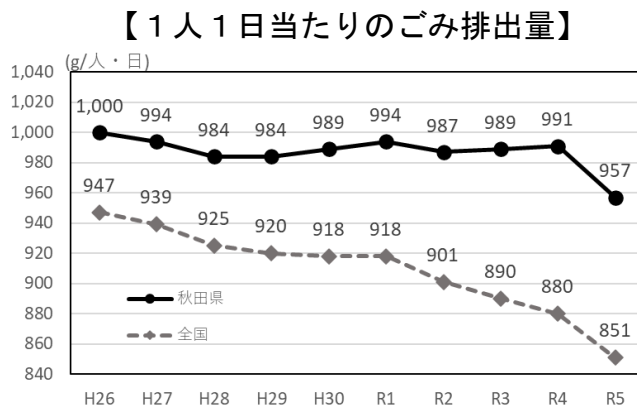
企業が地球温暖化や気候変動問題に対応するため、自社の事業活動やサプライチェーン全体から排出される温室効果ガスを削減し、最終的には実質ゼロに近付けることを目指す経営戦略

〔脱炭素経営のステップ〕

現状把握(排出量可視化)⇒削減目標設定⇒削減実行⇒情報開示(削減量、取組状況)

施策1 カーボンニュートラルの実現を目指す地域社会の形成
廃棄物の発生抑制と資源循環の推進

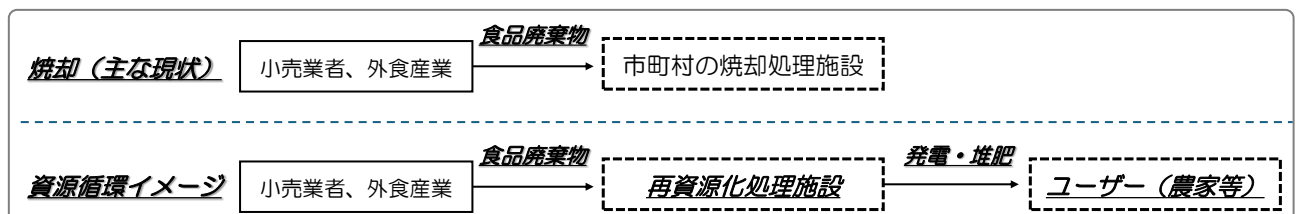
○ごみ排出量と食品ロス量



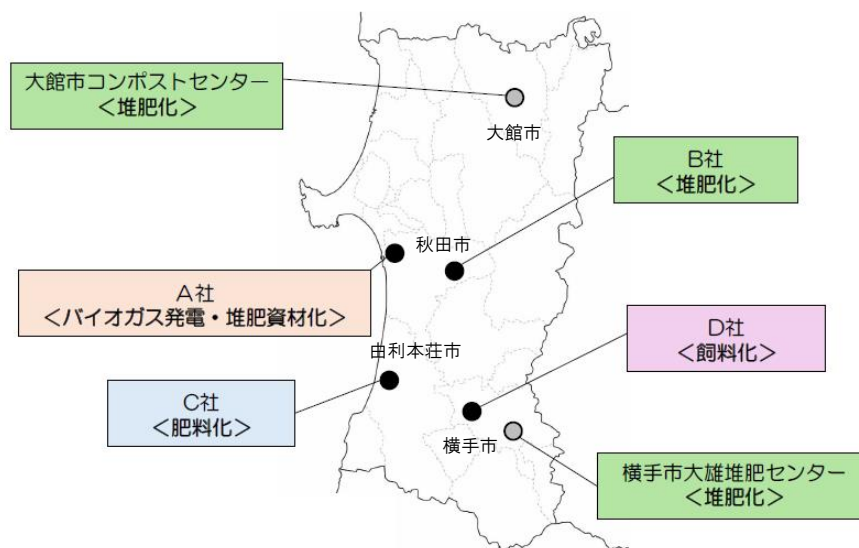
【1人1日当たりの食品ロス量】

○秋田県:130g/人・日
全国平均:113g/人・日
(R2 年度実績)

○食品廃棄物の処理・再資源化の流れ



【参考】食品廃棄物の再資源化処理施設の状況



【参考】廃棄物の区分

